



Mini-WANとは・・・港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- コンプライアンス講習会
- 幡豆町立東幡豆小学校が三河湾を見学
- 鳥羽の火祭り
- 第25回三河湾健康マラソン大会に参加
- 衣浦地域のみなどを考える市町長懇談会
- 田原健康ふれあいジョギング大会
- 美浜・南知多のまちづくりを考えるワークショップ
- 平成20年度第2回三河港BCM研究会
- 表浜で堆砂垣づくりに参加

☆CONTENTS☆



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

3月6日に、南知多町総合体育館で『みなとを活かしたまちづくりセミナー「講演会・成果発表会」』が行われました。これは、知多半島南部の美浜町、南知多町の両町3地区（河和、豊浜、日間賀島）で、3年に渡り住民主体で取り組まれてきた「まちづくり」の成果を発表するものです。当日は、前半の部として、地域づくりの第一人者である㈱地域活性プランニング代表取締役の藤崎慎一様から「地域づくりは人づくり」、また、元吉本興業㈱で故横山やすし氏のマネージャーを務め、現在は地域や人材を元気にする活動を進めておられる(有)志縁塾代表取締役の大谷由里子様から「大谷流『ココロの元気』のつくり方」と題した講演が行われました。

本プロジェクトを3年間ご指導いただいた藤崎様からは、「人づくり」の大切さを説かれました。大谷様は、控え室では物静かでしたが、舞台上立つと雰囲気は一転。笑顔を絶やさず、また大きなジェスチャーも交え講演いただき、会場は爆笑の渦に包まれました。内容も、「出来ない理由でなくどうしたら出来るかを考える。元気に行動することが心も元気にする。コミュニケーションの基本は、共通の話題を見つけ拡げること。」といった心に響く素晴らしいものでした。



河和地区

豊浜地区

日間賀島地区

後半の部は、3地区からの成果発表会。各地区とも趣向を凝らした発表で、物産市や海辺の映画会等を成功させた体験が自信となっているのか、会場全体盛り上がるのを肌で感じる事ができました。また、観客席からもエールが飛ぶなど、非常に一体感のある発表会となりました。藤崎様からは、これほどうまくいった事例は少ない、とのお言葉もいただきました。4時間が本当にあっという間で、密度の濃い充実した時を過ごせました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

○美浜・南知多のまちづくりを考えるワークショップ

2月17日、南知多町役場において「美浜・南知多のまちづくりを考えるワークショップ」が開催されました。前回行なわれたワークショップで他地区からの質問や意見、まちづくりのファシリテーター（中立的な立場を保ちながら話し合いに参加し、合意形成に向けて深い議論がされるよう調整する人）である(株)地域活性化プランニング代表取締役の藤崎慎一氏からの意見を踏まえ、今回の議題である“みなとを核としたまち同士が広域連携し、それぞれの地区が漁業・農業・商工・観光協会などの地域の様々な方が協同し、まちづくりを推進する体制づくり”について各地区から報告していただきました。

今回のワークショップでも様々な意見が出されましたが、これらを各地区が持ち帰り整理して、3月6日の成果発表会で最終的な内容が報告されました。（巻頭コラム参照）

○平成20年度第2回BCM研究会



研究会の様子

2月18日、三河港の臨海部におけるBCM研究会を実施しました。今年1月に、豊橋技術科学大学の河邑眞教授から三河港で想定される被害状況の説明を受けたことで、今回は「被災直後使用できる岸壁などの港湾施設、道路や橋梁などの物流施設、救急物資輸送道路として交通規制などの詳しい情報を「誰が収集」し、分りやすくすぐに利用できるように「誰が加工」し、「誰が発信」するのかを明確にすることが大切」といった、被災情報の提供、共有に関する議論が中心となりました。

BCMは新しい取り組みでもあり、研究会を重ねる度に多くの課題や問題が挙がってきます。今後も関係者との連携を密にし、災害時における三河港の港湾機能が速やかに回復されるように努めて行きます。

○表浜で堆砂垣づくりに参加

2月21日、表浜海岸（渥美半島の太平洋側）の砂浜で、NPO法人表浜ネットワークの主催による堆砂垣設置に参加しました。これは、海岸の侵食が問題となっている表浜で、木の杭と竹を使って簡易な垣根をつくり、砂の局所的な堆積を目的とするものです。

1年前は、最低気温2℃かつ強風という厳しい天候でしたが、今回は比較的暖かく、また経験者がいたため、非常にスムーズに作業が進みました。そのためか、堆砂垣の効果が上がるわけではないのですが、植木屋より上をきれいに揃える余裕もありました。

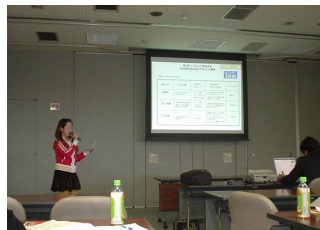
なお、これまでに設置された堆砂垣を見ると、見事に垣が砂に埋もれており、効果を発揮していることが分かりました。これにより、ウミガメの産卵がしやすくなるとのこと。一昨年に、子ガメの誕生を見る機会がありましたが、今年は産卵に巡り会えることを期待したいと思います。



新しくつくった堆砂垣



これまでにつくった堆砂垣



各地区から発表の様子



○コンプライアンス講習会

1月28日、中部地方整備局総務部の川上総括調整官と人事課舟戸補佐が講師として来所し、当事務所職員を対象にコンプライアンス講習会を実施しました。

コンプライアンスとは「法令遵守」という意味です。私達、国家公務員に求められるコンプライアンスとは、国民全体の奉仕者として自覚を高めるとともに、社会的要請を把握し、適切に対応することです。

今回の講習会では、去年起きた収賄事件や飲酒運転、大麻栽培などの事例を取り上げ、その事例に対する処分が紹介されました。その他には、入札談合の再発防止対策のための発注者綱紀保持規程、倫理保持等の内容でした。約1時間半の講習会でしたが、職員一人一人が真剣な表情で聞き入り、国家公務員としての自覚、コンプライアンスという意味を再認識しました。



講習会の様子

○幡豆町立東幡豆小学校が三河湾を見学

2月4日、幡豆町立東幡豆小学校の6年生50名に、海的环境学習として室内でビデオ、教材を使つての勉強会、及び、監督測量船に乗船して海から自分たちの住んでいる町や三河湾の観察を行いました。海的环境学習は東幡豆漁業協同組合の事務所をお借りして行いました。監督測量船は定員が限られているため、2つの班に分かれて順番に行いました。それぞれの内容ついでご紹介します。

①監督測量船からの観察



船の上にもすぐに慣れました

東幡豆小学校から海岸へは歩いて5分程度ですが、船に乗るのが初めての子が多く、不安そうにしている子も多く見られました。しかし、いざ乗ってしまえば上の写真のように大はしゃぎで「僕の家が見えたっ」「スナメリに会えるかな」などと船からの眺めを楽しんでいました。監督測量船での港内見学時間は30分程度と短い時間でしたが、「もう一回乗りたい」「次はもっと長く乗りたい」という声も聞かれ、海に対してさらに親しみを持っていただけたのでないかと感じました。

今回の見学会を通じて、実際に現地を見学することにより、身近な地域の学習がより深まるのではと思いました。当事務所としても、自分達が住んでいる海への関心を高めていただけるよう、引き続き、現地を見てもらいながら学ぶことのできる場を提供して参りたいと思います。



②海的环境学習

海的环境を理解してもらうために、私達が取り組んでいる伊勢湾再生とシーブルー事業について説明をしました。「今の海的环境はどうなっているのか？どんな生物がいるのか？」ということを知ってもらうために、普段見ることができない海底の様子のビデオ上映を行いました。私たちが出すゴミが海の底まで汚していることに驚くとともに、苦潮（青潮）の発生メカニズムにとっても関心があったようです。「海を掃除する船：白龍（名古屋港湾所有）」について教えて！」「苦潮ができる海底は真っ暗！生き物がいない！」など感想を聞くことができました。

最後にパネルを使い、海的环境を良くするために私たちができることとして、一人一人がゴミを捨てないことなどをお話させていただきました。



真剣な学習の様子



東幡豆漁業協同組合の
石川組合長さんのあいさつ

○鳥羽の火祭り

2月15日、幡豆町鳥羽神明社で、「鳥羽の火祭り」が行われました。この祭りは、約1200年前から行われていると言われており、2004年には国の指定重要無形民俗文化財に指定されています。

天下の奇祭としても有名で、高さ約5メートルの「すずみ」を2基作り、中に神木と十二組（月の数の縄）を納め、火打ち石で点火して始まります。そして、東西に分かれた二組の奉仕者が、燃える「すずみ」の中に飛び込み、神木と十二組を競って取り出し、神前に供えます。「すずみ」の燃え具合と、二組の奉仕者の勝敗によってその年の豊凶を占うそうです。火走る炎の熱気はすさまじく、本当にこの中に人が飛び込んで大丈夫なのかと心配になりましたが、炎をものともしない若者の勇敢な姿に、観客からは盛大な歓声が上がりました。是非、また見に来たいと思います。



激しく燃えるすずみ

○第25回三河湾健康マラソン大会に参加



スタート！

2月8日、蒲郡市で第25回三河湾健康マラソン大会が開催されました。大会は3kmコース（ジョギング）と10kmコース（マラソン）で行われ、今年は過去最高の約5000人もの皆さんが参加されました。

私は3kmコースに参加しました。当日は風が強く途中で苦しい時もありましたが、地元の小中学生が、向かい風に負けないくらい大きなかけ声をみんなで出し合いながら走る姿や、観客の応援に励まされ、無事に完走することができました。コースは、三河湾国定公園のシンボルの竹島や、蒲郡の海や港を眺めることができます。来年も是非参加したいと思います。

○衣浦地域のみなとを考える市町長懇談会



懇談会の様子

2月10日、衣浦グランドホテル（碧南市）にて「衣浦地域のみなとを考える市町長懇談会」を当事務所主催により開催致しました。この懇談会は、衣浦港周辺の自治体である半田市・碧南市・安城市・刈谷市・西尾市・高浜市・知立市・東浦町・美浜町・武豊町・一色町の首長の方々、港湾管理者である愛知県、中部地方整備局が一堂に会し、衣浦港の役割、課題等について意見交換をしていただき、今後の衣浦港の発展に役立てることを目的としています。

懇談会はまず、昨年いただいた要望への対応状況について当事務所より報告、続いて今年は伊勢湾台風から50年の節目の年であることから「災害時における港湾への期待・要望」をテーマとした意見交換を行いました。意見交換では、耐震岸壁や堤防の整備といったハード面から、防災リーダーの育成や情報伝達、広域連携といったソフト面の充実が重要とのご意見を頂いた他、伊勢湾台風時のご経験等もご披露していただき、大変有意義な内容となりました。今後とも地元のニーズに応えるべく、港湾機能の充実に努めて参ります。

○田原健康ふれあいジョギング大会

2月11日、田原市体育協会の主催により、白谷海浜公園に隣接する陸上競技場で田原健康ふれあいジョギング大会が開催されました。昨年は雪が降る中の開催となりましたが、今年は春を思わせるような暖かさで、田原市に住む方々を中心に約300名の方が、思い思いの種目に参加をされました。

私も一般男子5kmの部に参加をしました。この部門の申込者は5名で6位までが入賞？という大会ではありましたが、海沿いを走るコース設定で景色も良く、とてもすがすがしい気分で走ることができました。来年は皆さんも入賞目指して申し込んではいかがでしょうか。



春をおもわせる陽気の中